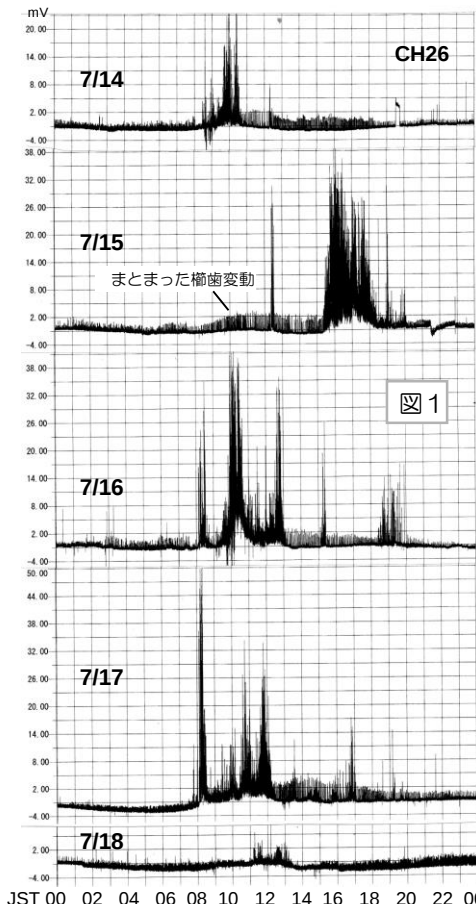


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No.1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No.1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No.1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo.1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、 $M7.3 \pm 0.5$ の地震が $1/2 \pm 2$ に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No.1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

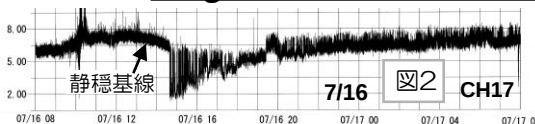
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

JST 00 02 04 06 08 10 12 14 16 18 20 22 00



No.1778 Stage-37 極大認識 7/15.5 → 7/16.5 修正

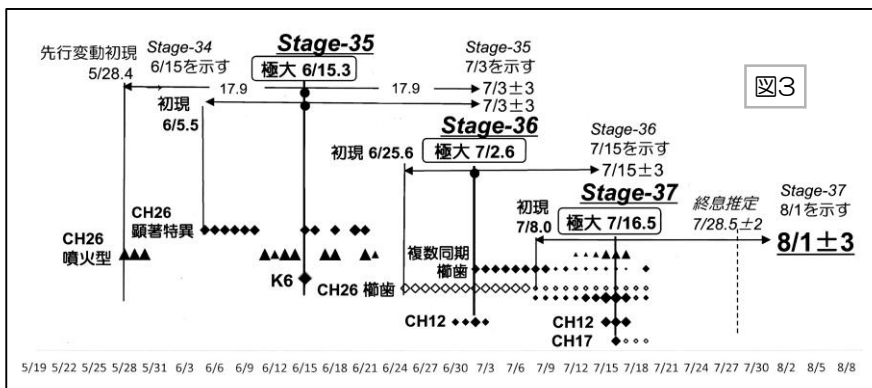
Stage-37 が示す日 7/29±3 → 8/1±3 へ修正



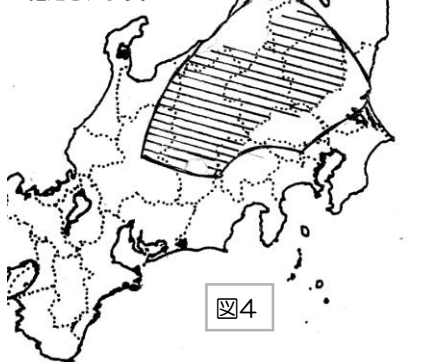
◆前続報で、Stage-37 のCH26のまとまった櫛歯変動による極大を7/15.5と認識致しました。しかし、図

1のとおり、まとまった櫛歯変動は7/15、7/16、7/17と三日間顕著に出現し、変動値の大きな噴火型変動近似変動も出現しました。さらに7/16に図2のとおり、静穏基線だったCH17に変動が出現し、その後も微弱に継続しています。CH12の変動もCH26とほぼ同じ変動が観測されました。これらを鑑み、Stage-37の極大を7/15.5から7/16.5に修正いたします。初現=7/8.0 極大=7/16.5の関係からTmap:Tmap = 20:13 経験則を使用しますと、8/1±3を示すことになります。Stage-37が示す日は、8/1±3と修正させていただきます。

◆この認識が正しい場合は、7/28.5±2に変動静穏化が計算されます。静穏化した場合は、8/1±3が対応地震発生時期となります。また、静穏化が観測された場合は、誤差も±2と小さく推定されます。静穏化しない場合は続報。



No.1778前兆変動初現は2008年7月4日です。18年1ヶ月継続となる観測歴上最長継続前兆変動です。歪み速度が極めて小さい領域の地震が推定されます。



●推定領域：図4の実線領域内＝大枠推定領域
斜線領域＝火山近傍で可能性が考えやすい推定領域

●推定規模：主震＋余震型の場合＝ $M8.0 \pm 0.3$ ($M7.7 \sim M8.0$ の可能性高い)
または 複合地震活動

※複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが $\text{Log } L = 0.5M - 1.8$ (Utsu.)式で、合計で110～150km程度となる複合地震活動の可能性有（例： $M7.1 \pm 0.3 + M7.3 \pm 0.3$ 等）

○地震発生に伴う震源に近い火山での噴火の可能性は現状では低い見解
今後、複数日噴火型変動が出現した場合は噴火の可能性有。出現の場合は続報

●推定時期：8月1日±3（※7/28.5±2に変動静穏化が確認された場合）

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前9時±2時間 or 午後6時±3時間
（複合地震では当てはまらない場合有）

※18年継続する観測歴上最長の変動は観測例がない初めての体験で、解析が極めて難しいため推定に誤りがある可能性は否めません。お許しください。